

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/09/19 ～2018/10/31)

私はギリシャのアリストテレス大学に神学を学びに来ています。アリストテレス大学が存在するテッサロニキはギリシャの第二の都市です。寮の近くにはエーゲ海を見ることの出来る港、ショッピングセンター、美味しいご飯屋さんが終結していて、生活には全く困らず、治安もさほど悪くないのでとても過ごしやすいです。

1. 勉学の状況

私の所属する神学部では、ほぼ全てと言っていいほど授業がギリシャ語で開講されています。ギリシャ語が出来ない私がどうしているかというと、毎回のクラスに出席し、英語のドキュメントを使って自分で勉強しています。分からないことがあれば教授とアポイントメントを取り、質問しに行きます。英語で授業を受けていない事と、書類を通した勉強をしているため、授業中に置いてけぼりにされる事が無く、自分のペースで勉強が出来ているのかな、と思っています。ちなみに今取っている授業は **world religion, history of church**.などを含む5つの授業です。これらの授業は神学部一年生とともに受けています。そのため周りの子達とも仲良くなれ、困ったときは隣で助けてくれます。また、学部長はとても私に優しくしてくださり、留学当初申請していた授業を急に変えたいといっても、真摯に対応してくださったり、私が受けたいといった授業の先生に私の事を事前に紹介してくださったりしました。私が不安になった時も、「全て私に任せなさい、ハッピーになりなさい。」と言ってくださり、本当に到着当初は学部長の存在に助けられました。

2. 生活の状況

留学初日から災難が続きました。空港で買えると思っていたSIMが買えず、携帯を使えないまま寮までたどり着くことになりました。空港からのバスを利用したのですが、バス停の標記がことごとくギリシャ語でどこで降りるか分からない上に、自分がどこにいるのか分からず、焦りだけが増えていきました。結局タクシーが止まっているところであり、タクシーで寮まで送ってもらいました。その後も部屋にたどり着いてからヨーロッパの鍵の開け方が分からず、部屋に閉じ込められたり、と大変でした。1ヶ月経った今でもいまだに笑い事に出来ないくらい当時は大変でした、、、。後から空港でのピックアップサービスがあったことを知りました。私のようにならないためにそういったサービスがあるかを事前に確認する事をおすすめします。それからというもの、常に孤独と戦う毎日でした。このギリシャには日本人どころか、アジア人すらあまりいません。そのため街を歩いているだけでいろんな人に見られ、それは最初余り

心地よいものではありませんでした。しかし、大学に通うようになってからは日本人の珍しさからいろんな人が優しくしてくれ、友だちも「日本の文化素敵！日本に行きたい！」とってくれます。大学の友だちは授業の終わりや、私が何もする事がない日、カフェやご飯に連れて行ってくれます。そのおかげで今ではテッサロニキという町が好きになり、街を歩いて人に見られることも慣れました。休みの日は友だちと旅行に行ったり、平日の夜は友だちとカフェに行って話したり、とフットワークを広げています。

ご飯はすごく美味しいです。特にスブラギといった日本で言う焼き鳥や、ティロピタというチーズパイ、チーズを使った料理が兎に角美味しいです。ギリシャの経済危機があったせいか、全てのものが安く、奨学金をもらっていない私にはありがたい限りです。また、大学の食堂でも寮でも3食無料で食べることが出来ます。(私は料理が苦手なのでとてもうれしいです。)

ESN という留学生団体があるのですが、その組織が運営しているイベントによく参加し、ヨーロッパ諸国から来た留学生と仲良くなりました。仲のよいグループも出来、週末はよく旅行に行ったり平日も一緒にご飯を食べたりといった生活をしているのですが、それぞれの訛りのある英語には未だになれません。単に自分の英語力が無いからなのですが、ヨーロッパの人達の話すスピードはすごく速く、理解出来ないことも多々あります。ですがまだ留学に来て1ヶ月なので、これから楽しく会話をして行く中で英語力の向上も達成できれば、と思っています。まずはあせらず、ゆっくり、健康に過ごしていきたいと思っています。

最後に、私が派遣留学生にお勧めしたいことです。

①空港でSIMを買えるかを確認する事 ②大学が主催するイベントに全て出なくてもいいが大体は参加すること。毎回のイベントは楽しいですが、正直毎回疲れることもあります。しかし、これからの生活をして行く上で、友だちという存在はとても大事になってきます。孤独を感じないためにもイベントに参加し、積極的にコミュニティを作ることを強くおすすめします。③誘われたものには積極的に参加すること。私自身、スキアトスという島に旅行に行ったのですが、実は行く前は全く行く気がありませんでした。というのも、イベント参加にとっても疲れてしまい、3日間も旅行することが困難だと思ったからです。しかし、ともにヨーロッパ留学している友だちが、「誘ってくれる人がいるなら行った方がいい。これから勉強も始まるし旅行が困難になるかもしれない。いまのうちに思い出を作った方がいい。」と言ってくれ、参加を決めました。結局、旅行でたくさん知り合いが増え、とても素敵な友だちが出来、今でも一緒にご飯を食べに行く事が出来ています。④頑張らないこと。私が留学に来てから精神的に疲弊しきってしまい、泣くことも多々ありました。その際に、友だちや両親から、「頑張らなくていい。一日ずつ、生きよう。病気になったら帰ってあげればいい。いつでも待ってるよ。」

などと言ってくれ、変に張り詰めていたと感じ、リラックスして過ごせるようになりました。派遣留学の初めの一ヶ月は辛いことも楽しいことももちろんありますが、頑張らずに、1日ずつ生きていくことが、精神的な安定を保てる最高の手段だと思っています。



これは留学生達で行った旅行（chalkidiki）での一枚です。



ヨーロッパの寿司です。日本と同じ味でした。



ESN が企画してくれた旅行での一枚です。(skiathos island)

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/11/01 ～2018/11/30)

1. 勉学の状況

勉学の授業は前の月間報告書の頃とさほど変わりはありません。一つ、プレゼンテーションの授業を取っており、そこで日本の宗教について発表することになりました。日本の宗教の状態について日本に居た頃はあまり深く考えていなかったもので、論文を読みあさり、改めて日本の宗教について学ぶことが出来ました。神道、仏教の歴史、それぞれの信者数、どのように日本のシステム・行事に宗教が取り入れられているか、なぜ日本人は自分の事を無宗教者だと語るのか、新興宗教による事件、テロなどが目立った ISIS についてなど幅広い事柄をプレゼンテーションしました。ギリシャ正教が広がっていて、宗教を持つことが当たり前なクラスメートの前での私の日本の宗教についてのプレゼンテーションは、私が思うよりも反響が強く、好評でした。少人数授業だったため、質問も多く、一つ一つに答えるのはすごく大変でしたが、自分では思いつかなかった疑問であったり、他宗教者からみた日本の宗教環境への思いを知ることが出来て、こちらにきて一番の学びだったのではないかと思います。また、課題としてエッセイが課せられているのですが、そちらも日本の宗教についてのものだったので、自分のプレゼンテーションを深く掘り下げて考えながら英語でエッセイを書くことが出来、これもまた達成感のある勉強で良かったと思います。相変わらず、授業はギリシャ語なので、神学を初めて経験した身としては本当に大変です。先生からあたえられた資料も 300 ページの本が 3-4 冊、など、本当に莫大な量ですが、少しずつ理解して行こうと思っています。

2. 生活の状況

こちらに来て、大学のジムに登録しました。ここではダンスやヨガ、ズンバなどのレッスンを受けることが出来ます。家からジムまで 40 分、ビギナークラスだったので正直迷いましたが、身体を動かすことが身近に無いので登録を決めました。初めてのヒップホップのレッスン後、先生に声をかけられ、「初心者じゃないでしょ？近くに別のハイレベルのダンススクールがあるから来てみないか？」と言われました。それからというものダンススクールに暇があるときは行き、ダンスレッスンを受けています。私はもともとダンスをやっていて、海外で人前で踊ることが長年の夢でありました。日本と違うスタイルがいっぱいで、汗もかくこともでき、それ以上に私の夢が叶った事に感謝しています。この事から、一つ挑戦することで、それから派生して何か他の事も成し遂げられるのだ、と強く感じました。

最近によく友だちの実家にお邪魔し、ホームパーティーをしています。夜にホラー映画を見たり、日本食を作って食べさせたりしています。毎週末楽しみがあるので平日を頑張ることが出来ています。大体は神学部の子達と行動を共にしていて、授業後にカフェに行ってコーヒーやお茶を飲むことも平日の楽しみです。エラスムスプログラムの子達とは 2 週間に 1 回ほど集まり、餃子、やきそば、寿司などを作ったりしています。このようなホームパーティーでは、料理の際に使う実践的な英語を体得できたり、作業しながら人種・法・政治についてお互いが思っている事の意見交換をしたりなど、すごく有意義な経験をすることが出来ています。日本に居た頃はあまりそのような事柄について関心を常に持っていない人が多く、意見交換さえ出来なかったのですが、ヨーロッパの人達は常日頃からなにかしらに問題意識をもって自分の意見を持っている人がとても多く、見習うべき点である、と思っています。また、日本食がこんなに世界で有名なのか、とも思いました。

神学部が主催するスクールトリップでトルコ・イスタンブールにも行ってきました。学校主催だったのでとても安心して行く事が出来ました。実際にコーランを聞けたりハギアソフィア大聖堂にも行くことができました。説明はギリシャ語だったため教会ごとの情報は理解出来ませんが、高校の時に世界史の教科書で見ていた光景を直接見る事が出来、とても感激しました。自由時間ではグランドバザールに行きました。そこでは多くのブランド品の偽物が売っており、巧みな商法で売っています。私は本来のブランドに失礼だと思っているのでそういった偽物はあまり好きではなく、何も買いませんでしたが、多くの人が偽物だと知りながら購入していました。あまりそういったことを気にしないのかもしれませんが、これも文化の差なのかな、と思いました。また、私は多くの商人にチャイニーズと間違われました。こちらに来てからというもの、日本への愛国心が芽生え、チャイニーズと間違われることに対してのいらだちを感じるがありますが、私のこの考え方はそれこそ一種の racism にもなりかねる、とも思いました。考え方、捉え方をは本当に難しいものです。

11月の頭に、ちょっとした racism に遭いました。そのとき、一番仲のよいベルギー人の友だちに助けてもらったのですが、その時の言葉がすごく心に残ったので紹介します。その日はあまり朝からよいことがなく、その上 racism を受けたので精神的にまいっていました。ダンスのレッスンを無事に終え、帰ろうとしたとき、ベルギー人の友だちが、「これからコンサート行くけど見に来ない？」と誘ってくれ、二人でバスに乗ってコンサートホールに向かいました。コンサートはアジアの音楽を中心にしたものですごく心に響きました。その帰りにメキシコ料理屋さんに行ったのですがとても美味しいところで、とてもよい日になりました。ベルギー人の友だちに感謝を伝えるため、「今日は嫌なことがいっぱいあった日だったけれど、あなたのおかげでいい1日になったよ。」と言いました。すると「always judged in the end of the day. Everything changes better!」と言ってくれました。本当にその通りです。どれだけ嫌なことがあっても1日のおわりにいいことが起こり、寝る直前に今日はいいい日だったな、と思えばそれでいい。それが一週間単位でも同じ。月曜日から金曜日まで嫌なこと、つまらないことがたくさんあったとしても週末に笑えればいい。こう考えることで少しづつ生きやすくなってくると思います。海外

で生活していると、本当によい刺激を得ることが出来ます。悪い刺激と感じても、日本ではそれ
がいい刺激だったからこそ悪い刺激に感じるのだとも思います。



テッサロニキには可愛いカフェがいっぱいで日本ほどさほど混んでいません。



友だちの誕生日のためのアルバムづくりの写真です。たった 2 ヶ月でこんなにすてきな写真が
増えました。



イスタンブールの教会です。



イスタンブールの学校です。



ハギアソフィア大聖堂です。



一番仲のよい神学部のギリシャの友だちとのホームパーティーの時の写真です。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/12/01 ～2018/12/19)

1. 勉学の状況

勉学についてはさほど以前と変わりがありません。ですが一つ、机上では学べない体験をしましたのでそのことについて書こうと思います。

12月6日、10年ほど前にギリシャで警察が当時16歳程であった少年を射殺してしまう事件が起きました。その事件から毎年、追悼のデモが行われています。当初「追悼」の気持ちを込めた平和的デモだったのですが、年々暴徒化しているのです。12月6日の朝、私は学部長に会う予定がありましたので学校に向かったところ、神学部の入り口が閉鎖されていて、その周りには目以外黒の布で覆った人達が6人ぐらいいました。一目見て危ないと感じ家に帰り、その後は外には出ませんでした。次の日、授業に行くと誰もおらず、階段は破壊され、壁にはスプレーによる落書き、窓ガラスは全て割られていました。清掃している人が多く、そのうちの一人に「今、生徒は立入禁止だから帰りなさい。」と言われました。その日の夜にギリシャ人の友だちからメッセージが届き、開いたところ「神学部が破壊されてしまったから水曜日まで学校無いよ。」とのことでした。それから授業のない日が続き、水曜日になったのですが復帰の目処は立たず、神学部の生徒が召集され、学部棟内を掃除することになりました。割れた窓ガラスの掃除、机にのった灰の処理など、学部生が一体になって掃除をしました。ギリシャのテレビ局もインタビューに来ていて、ギリシャ全土で大きくニュースになることなのか、と感じさせられました。周りの神学部生徒はFacebookに荒れ果てた神学部棟の写真を載せ、怒りをあらわにしていました。ギリシャ人のほとんどはギリシャ正教の信仰者です。にもかかわらずそのアイコンや絵画、坪などを壊したりスプレーで落書きをしているという状況自体が私にとって驚きでした。それに疑問に思い友だちに質問したところ、キリスト教を信仰する家に生まれたとしても、育っていくうちにその教理を好きになれずに反抗する人もいたり、教会に行かない人もいたりするそうです。これを聞いていて、ある意味日本と同じような状態なのだと感じました。熱心に信仰する人、形式的にその教義を遵守している人、好きになれずに反抗する人。日本と同じように、ギリシャ正教が暗黙の了解であるギリシャでも似たような状況があるということを知ることが出来ました。デモと神学部の関係性はいまいわかりませんが…。本や授業だけでは学ぶことの出来ない宗教の側面を体感して知ることが出来たのだと思います。この事件は決して社会的にはよいことではありませんが、私にとってはなかなか出来ない貴重な経験だったと思います。

2. 生活の状況

今月が私にとってギリシャ最終月でした。というのも、留学1年の予定を変更して半年に変更したからです。理由は留学生課の方にも連絡いたしましたので、ここでは省かせていただきます。そのラスト1ヶ月でもかなり思い出が出来ました。クリスマスが近いということで、町中クリスマスのイルミネーションだらけでした。街を歩くだけでもわくわくするような、まるで洋画の中にいるようでした。近くのアリストテレス広場にはカルーセル、クリスマスオーナメント、屋台が建ち、小さい子から大人までが楽しめる広場になっていました。友だちの家にも伺ったのですが、クリスマスツリーや、キャンドルが本格的で、クリスマスへの熱意が感じられました。当初からの目的、「ギリシャ正教・キリスト教の大事な行事であるクリスマスを体感すること」ができました。

その他にも、友だちの家に行って猫と戯れたり、近くのショッピングモールにご飯を食べに行ったり、カフェでギリシャの政治・法・社会などについて語ったりもしました。とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

最後に、このように人に発信出来る機会がなかなかないので、私が伝えたいことをお話しします。留学について、みなさんはどのようにお考えでしょうか。私は皆さんに日本人がよく持つ留学についての固定観念に左右されず、自分にとって正しい選択をしてもらいたいと思っています。わたしが出国前、留学という言葉を使ったとき、よく言われたことが、「1年ってすごくない?」「1年もいたら英語ペラペラになって帰ってくるんでしょ?」「留学行ったら就活有利そうだよね。」でした。皆さんもこれらの言葉に惑わされていませんか?このイメージに沿った自分に帰国後は必ずなっていると想像していませんか?本当のあなたの留学の目的はなんでしょうか。

本当に学びたい事と4年間の大学生活の比重を考え、自分にしか出来ない、誇りの持てる留学が出来ることを、祈っております。私は自分の留学に誇りを持っています。今留学を頑張ってる方も、これから留学する方も頑張って下さい。応援しています。留学に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

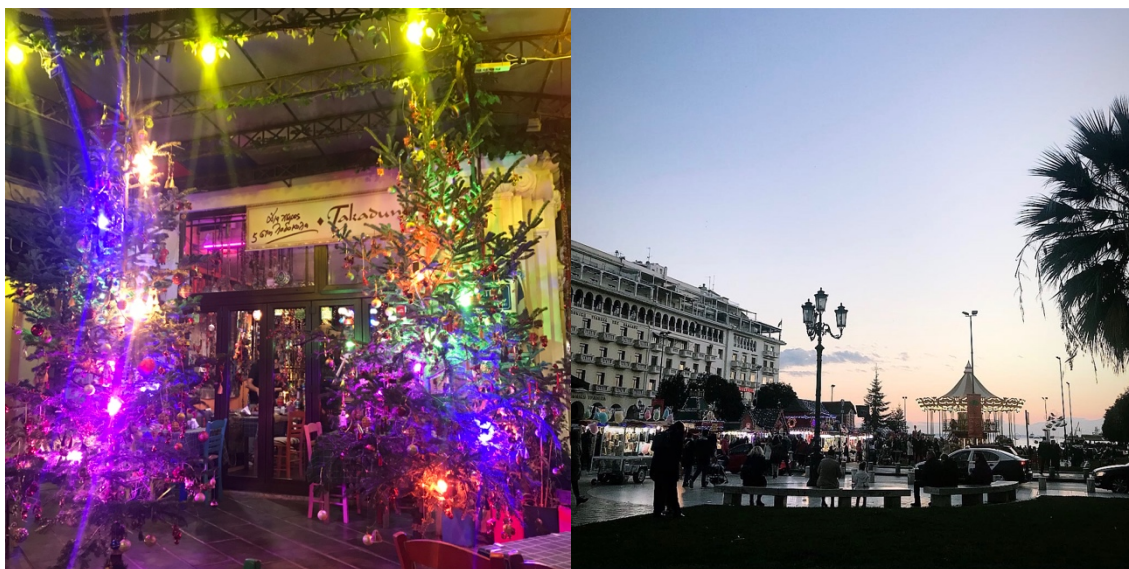


破壊された神学部の学部棟です。



クリスマスイルミネーションのハギアソフィア

通り



クリスマス仕様のアリストテレス広場



友だちがギリシャ料理 Yemista を作ってくれました。



お世話になった Buddy です。いっぱい助けてくれました。
以下は帰国日。空港まで見送りに来てくれました。

